

第4回動物叙事詩学会報告

原野 昇

この学会は、1972年にベルギーのルーヴァンで開催された中世動物叙事詩国際会議をきっかけに、その後グラスゴー大学のヴァーティ教授などの尽力で、国際学会として組織化されたものである。ヴァーティ教授が会長を務め、アムステルダム大学のファン・デン・ボーガード教授が副会長である。フランスの『狐物語』や特にヨーロッパ諸国のその類似作品を中心に、寓話、フェアリー、動物誌などを主な研究対象とする学会で、文学作品のみならず図像学（イコノグラフィ）などの分野をも含んでいる。中世文学関係では、武勲詩を主な対象とするランセスヴァルス（ロンズヴォー）学会と宮廷風物語（ロマン・クルトワ）を主として扱うアーサー王学会という、ともに長い伝統を誇る二大会に比べれば、比較的新しい学会といえることができる。どの分野でもそうであろうが、最近はこうしたより専門化した、あるいはより学際化した新しい学会が次々に誕生する傾向があるようである。中世関係ではこのほか中世演劇学会が1974年以降発足しているし、さらに最近では、アメリカを中心に活動していた15世紀学会が1981年8月初めてヨーロッパ（西ドイツのレーゲンスブルグ市）で開催された。

動物叙事詩学会の第1回大会は1975年にスコットランドのグラスゴーで開催され、第2回はオランダのアムステルダムで1977年10月21-24日に、また第3回は西ドイツのミュンスターで同大学のゲーゼンス教授を中心に1979年10月26-28日にそれぞれ開催された。今回は第4回大会で、1981年9月7-11日にパリとノルマンディーのエヴルーにおいて、ルアン大学のピアンチョット教授を中心に開催された。会場が2か所にわたったのは、発表希望者が予想以上に多かったためで、当初は9月8-11日にエヴルーにおいてのみ開催される予定であったが、会期を一日早め、9月7日の初日をパリで開会し、その夜のうちに参加者はエヴルーに移動し（パリから汽車で西に約1時間）、2日目以降のエ

グループでのプログラムに参加するという変則的な形になったものである。ちなみに発表者数は、前回のミュンスター大会が35名、前々回のアムステルダム大会が30名であったのに対し、今回は63名にものぼった。フランスの作品が研究対象の中で大きな位置を占めているにもかかわらず、第1回がスコットランド、第2回がオランダ、第3回が西ドイツとこれまでいずれもフランス以外で行われてきたのが、今回初めてフランスで開催されたので、参加者が急増したものである。日本からの参加者は、第2回のアムステルダム大会に創価大学の福本直之氏が参加し研究発表を行ったのが初めてである。今回は同氏と筆者がそれぞれ分科会の司会を務めるとともに、両名共研究発表を行った。その他新村猛氏（名古屋大学名誉教授）が夫人同伴で全期間参加されたのをはじめ、鹿島絹（光華女子大学）、伊藤了子（関西学院大学）、佐々木茂美（明星大学）の各氏が部分的に参加された。なお三宅徳嘉（学習院大学）、大高順雄（大阪大学）の両氏は参加を予定されていたが、都合により取りやめられた。

発表者の内訳は、フランスの17名を筆頭に、イタリア13名、西ドイツ9名、オランダとイギリス（スコットランドとウェールズを含む）が各5名、アメリカ4名、カナダ、ソ連、日本が各2名、ベルギー、スイス、スペイン、ケニアが各1名、計13か国（63名）となっている。なおこれらの発表は、従来と同様第4回大会発表論文集として1983年にルアン大学より出版される予定になっている。これまでに刊行された大会発表論文集を列挙すると下記のとおりである。1972年にルーヴァンで開かれた国際会議（第0回大会）のものから挙げておく。

0. Rombauts (E.) & Welkenhuysen (A.) (éd.), *Aspects of the Medieval Animal Epic, Proceedings of the International Conference, Louvain, May 15-17, 1972*, Louvain/The Hague, 1975
1. Varty (K.), (éd.), *The Proceedings of the First International Animal Epic, Fable and Fabliau Colloquium*, Glasgow, 1976
(私家版、未見)
2. *Marche romane* vol. 28 (1978), numéro spécial des Actes du Colloque de la société renardienne qui s'est tenu à Amsterdam du 21 au 24 octobre 1977
3. Goosens (J.) & Sodmann (T.) (éd.), *Proceedings of the Third*

International Beast Epic, Fable and Fabliau Colloquium,
Münster 1979, Köln/Wien, 1981

エヴルーは人口約5万の小さな町であるが、町の中心に13世紀に建てられたノートルダム聖堂をもち、歴史のある静かな落ち着いた雰囲気のある町である。このたびは町ぐるみでこの学会を歓迎してくれ、「中世芸術にあらわれた動物」展をはじめ、音楽会、14世紀に建てられたサン・トールン教会でのオルガン演奏会、市長主催のレセプションなど多彩な催物が用意された。また大会4日目の9月10日は小旅行にあてられ、ルアンをはじめ、ボシエルヴィル（サン・ジョルジュ）、ジュミエージュ、サン・ヴァンドリーユの各修道院遺跡を訪れることができた。こうして町をあげての歓迎の雰囲気に浸ることができたが、特に印象的だったのは、先に述べた展覧会の開催である。小さな町にもかかわらず役場や博物館に専門家を擁し、彼らがいっしょけんめい力を合わせ、あちこちから貴重な展示品を借り出し、1年前から東奔西走して準備したという裏話を聞き、フランスの文化的底辺の広さを垣間見た思いがしたものである。